2020
11.7
SAT

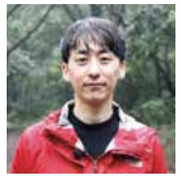
立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ 伐採ワークショップ

開催場所｜熊本県林業研究・研修センター

公衆トイレの柱として使う丸太材を、立田山の中の広葉樹から選んで伐採する。

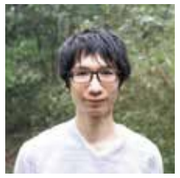
立田山の公衆トイレプロジェクトでは、柱に間伐材などの丸太材を使う計画。その柱の一部として使う木材を立田山の広葉樹から選定・伐採するワークショップを開催した。丸太材は、その自然の曲線美を建物の意匠として活用することで、近隣の自然と一体感のある施設にする目的がある。ワークショップには、熊本県立大学の学生が参加した。設計者からプロジェクトの概要説明後、その意図に沿った樹木を選定し、伐採する一連の作業を3チームに分かれて行った。小雨が降る中、樹種やその形、大きさなどを確認しながら森林を歩いた。枝振りや曲がりなどを、建物のどの部分で利用するか、イメージを膨らませ、議論を交わしながら候補の丸太を10数本に絞り込み、最終的に伐採した。今後乾燥工程を経て、最終的には6本程度を柱材として使用する予定である。

設計者コメント



【意匠】株式会社 山下設計　坂本達典氏

自然豊かな公園で、その環境にとけ込み、公園での体験をサポートできる施設をめざしました。立田山にある広葉樹の丸太を使うことは、自然にとけ込むために必要な要素でした。今回は柱になる木材を選びましたが、取っ手やフック、照明などに使えそうな木材も見つかり、さらにイメージが広がりました。



【構造】株式会社 山下設計　曽根拓也氏

ワークショップでは広葉樹を使うことを前提に行いました。あえて曲がり材を選ぶことで、同じ土地で育ったものの風合いを構造として生かすつもりです。森林の健全な維持のために間伐材利用をプロジェクトの軸に据えています。丸太材を使えば、無駄にするところが少なく、小さな径でも柱として使える利点があります。

参加者のコメント

自分たちで選んだ木材が、今回の施設にどのように生かされるのか、できあがりが楽しみでしょうがありません。建築を学ぶ学生として、とても勉強になりました。
（大学4年生：飯星裕貴さん）

ワークショップで広葉樹を探す時は、どの形がおもしろみがあるのか、どう使われるのか、いろいろ想像して選びました。できあがった後のみんなの反応が楽しみです。
（大学2年生：塩谷葵さん）

柱として使う木を選んで、伐採するという経験は貴重。構造や意匠のことを学んだうえで、どのような樹木を選んでいくのか、そのプロセスが楽しかった。
（大学4年生：田北実早紀さん）

進行中プロジェクト

被災した公民館を再建する「みんなの家」

南阿蘇村立野駅区

「日本財団わがまち基金」を活用し、被災した10地区の地区公民館を再建し、「みんなの家」とするプロジェクトを進めている。

南阿蘇村立野駅区のみんなの家は、避難所機能を付加するとともに、住民が集まることのできる天井の高い大きな空間と水回りや倉庫を納めた天井の低い小さな空間が併存するワンルームを、シザーズトラスの構造体で実現。玄関には炊き出しやバーベキューなどさまざまな形で利用可能な、人々が集まりやすい軒下空間を設けることで、より立ち寄りやすくなるように計画。みんなの家の窓、土間からは四季折々の風景が楽しめるようになっている。

- 構造・階数　木造・平屋
- 延べ面積　99.4㎡
- 施工者　株式会社小川工務店
- 竣工　2020年4月

写真提供：アトリエ・ワン

熊本地震震災ミュージアム中核拠点施設

熊本県では、熊本地震により県内各地に広範囲に出現した断層等の震災遺構とともに、観光施設等をつなぐ“回廊形式”のフィールドミュージアムの整備を進めている。このフィールドミュージアムの中核拠点となる阿蘇地域に整備する体験展示施設を113番目のくまもとアートポリスプロジェクトとして取り組んでおり、令和２年（2020年）2月に実施した公募型プロポーザル公開審査で、「o+h・産紘設計JV」が選定された。現在、コロナ禍でこれまでのように県内外の自由な往来ができないことから、オンラインツールを活用し関係者との協議を重ねている。阿蘇の雄大な風景に呼応しながら、「自然と人間のつながりを感じ、自然とともに生きることを考える場」の創造を目指して基本設計を進めている。

- 構造・階数　木造・平屋
- 延べ面積　1300㎡程度
- 設　計　者　o+h・産紘設計 JV

南阿蘇鉄道 高森駅周辺再開発

南阿蘇鉄道の全線復旧を見据え、高森駅の建て替えや駅周辺の再開発を行う112番目のくまもとアートポリスプロジェクト（以下KAPプロジェクト）。令和2年（2020年）11月21日には、漫画『ONE PIECE』と熊本県が連携した「ONE PIECE 熊本復興プロジェクト」の一環で、フランキー像が既存駅舎の高森駅前に設置された。フランキー像が復興のシンボルとして親しまれKAPプロジェクトが南阿蘇鉄道沿線地域の復興の歩みを大きく後押しできるよう取組みを進めている。

高森駅周辺再開発の工事スケジュール

令和３年度（2021年度）　土木、排水等工事
令和４年度（2022年度）　新駅舎工事
令和５年度（2023年度）　防災交流棟工事